



図3 小山館現況

扇状地に面した段丘上に立地する。田の広がる扇状地を望む段丘上に城が存在する。城館を中心として、半円状に集落が広がっている。集落の中心地かつ、扇状地を俯瞰することのできる場所である。現地では約2mの高さの土塁を確認することができた。

2-2.雨森館



図4 雨森館周辺航空写真・土地条件図



図5 雨森館現況

湖北地域では1集落が単立していることが多いが、この場所は雨森、持寺、井口、保延寺の4つの集落が1つの場所に集まっている珍しい地区である。雨森はその中で南東に位置する集落である。雨森の大字領域は高時川を挟んで東西にまたがっているが、集落は西側にある。雨森館は、集落の中央部東端に立地し、高時川を渡る橋にも近い。渡河点を押さえ、東側の田を俯瞰可能な場所に立地している。現地は雨森芳洲庵という資料館になっており、敷地内には土塁が残る。雨森出身の外交官雨森芳洲の家に伝来した雨森の絵図が残されており、雨森館の東には馬場であったと伝わる場所も残っている。



図6 雨森絵図

2-3.唐川城



図7 唐川城周辺航空写真・土地条件図

唐川村の大字領域は後背湿地、氾濫平野にまたがる。氾濫平野内の自然堤防上に唐川城は立地する。自然堤防内西側に「里ノ内」という小字があり、土塁が現存する。浅井氏の家臣磯野氏が城館を構えたとされる。また「西殿」「東門前」「西門前」「木戸」など城館に関連する可能性のある小字名も残っている。

2-4.西物部城



図9 西物部城周辺航空写真・土地条件図

西物部村は氾濫平野に位置する。自然堤防上に集落があり、その中に北西隅に西物部城は立地する。現状としては北側、南側に土塁が現存する。



図8 西物部城現況

2-5.赤尾城



図 11 赤尾城周辺航空写真・土地条件図

赤尾村は西に山地が控え、東側に後背湿地が広がる村である。集落は山裾の扇状地に位置する。集落は東側の田を俯瞰する場所にあり、赤尾城は集落の中央部に存在する。



図 10 赤尾集落遠景

2-6.山本山城



図 13 山本山城周辺航空写真・土地条件図



図 12 山本山城土塁

山本山は標高 325m の山である。琵琶湖に面し南北に走る山稜の南端に位置する。南側から見るとお椀を伏せたような形をしており、米原、長浜など、かなり遠くからでもそれとわかる形をした象徴的な山である。周辺には古保利古墳群も存在する。周辺の田、湖上交通を監視することのできる位置にある。現地では南西から登山したが、傾斜がきつく、防御に適した地形であることがうかがえる。登山道には火山由来と思われる岩が露出していた。山頂には土塁で囲われた区画を確認することができた。

2-7. 賤ヶ岳城



図 14 賤ヶ岳城周辺航空写真・土地条件図



図 15 賤ヶ岳城から湖北平野を俯瞰

賤ヶ岳城は、湖北平野の北西に位置する標高 421m の山地に位置する。ロープウェイを用いて登山することができ、山頂からは琵琶湖、余呉湖、湖北平野を俯瞰することができる。水運、交通を把握できる重要な場所であったことがうかがえる。この城は 1583 年に豊臣秀吉と柴田勝家が戦った賤ヶ岳の戦いで戦場となった。

3. 考察

3-1. 地形と城館

前章で取り上げた 7 つの城館のうち、標高 200m 以上の山地にある城が 2 個、平野部にある城が 5 個であった。山地に築かれた城館からはかなり遠くまで見渡すことができ、村を越えた地域単位の戦略拠点であったと予想される。

平野部の城館は集落の位置する自然堤防上、扇状地に立地する。1 つの村につき 1 つの城館というのが基本的なパターンであり、村落の単位の支配の拠点であったと考えられる。

平野部の城館のなかで、地形的に村の田地を俯瞰可能な場所にある城館は小山館、雨森館、赤尾城の 3 つである。これらの 3 つには、集落の中心的な位置にあり、城館を中心に集落が形成されている共通点がある。そのほかの城、唐川城、西物部城は集落の辺縁に立地する。集落と城館の位置関係は、村落に対し、居館の主がどれだけ支配力を持っていたかを反映するのではないかと考えられる。

3-2. 水利と城館

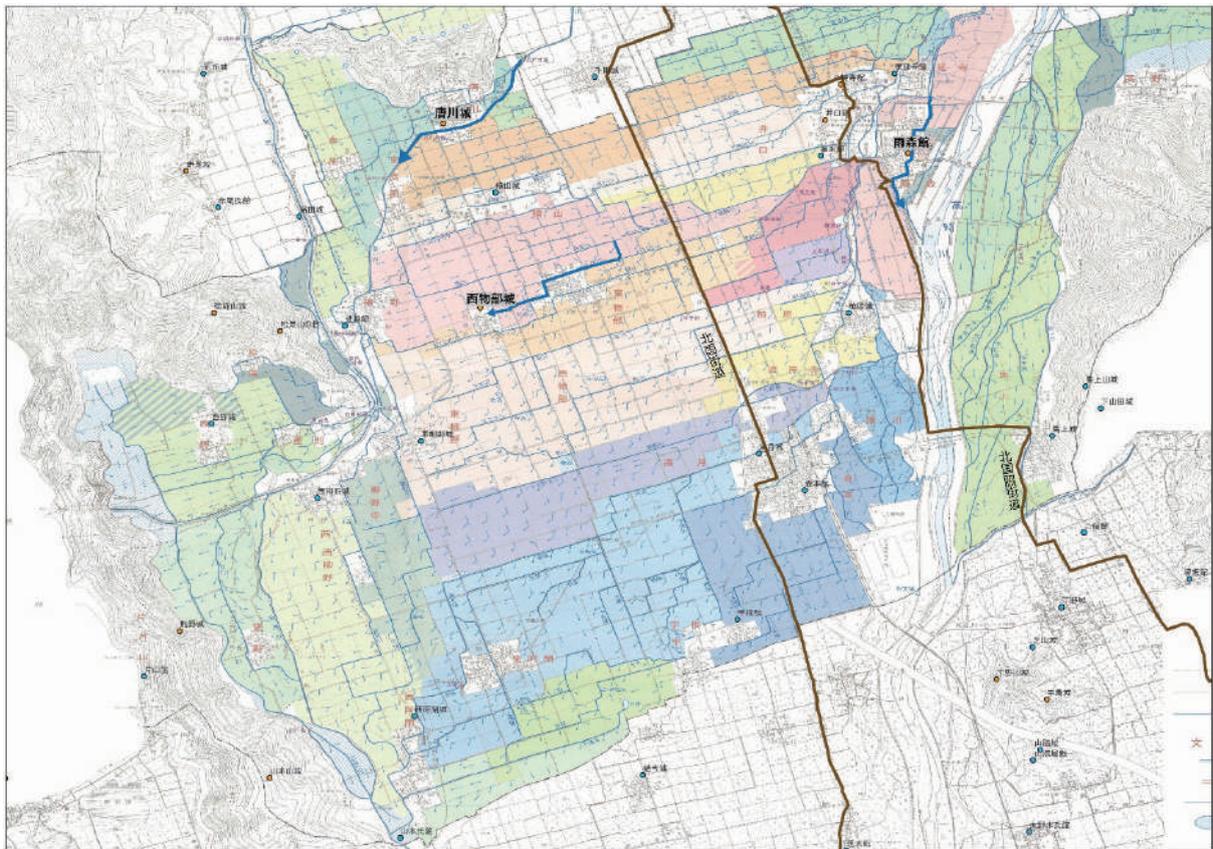


図 16 水系と城館の位置「高月町域水系図」(高月町史所収)に加筆

大正期以前の旧高月町の水利を復元した「高月町域水系図」(高月町史所収)に城館の位置を重ね合わせた。茶色の線は街道(北国街道、北国脇街道)である。城館のプロットは『滋賀県中世城館調査』によっている。プロットの色は遺構の残るものはオレンジ、残らず伝承のみのものは青で表示している。

前章で取り上げた遺構の残る城館の中で、雨森館、唐川城、西物部城の3城は主要な水路に近接していることが確認できた。また、遺構の残らない城館も、柏原城は主要な水路が分岐する場所、高月城は水路と街道が交差し両方を把握できる場所に立地している。全てではないものの、城館の立地を決める要素として水路が関係していることが推測できる。唐川城、西物部城の立地は村の田地の俯瞰という視点からは説明できなかったが、水路の把握という視点では合理的であることが分かる。

4. まとめ、今後の展望

城館の立地の要因としては、周囲の田地を俯瞰できる場所、といった地形の要因がまず挙げられる。そのほかに、主要な水路を把握できる場所という開発の要因も影響している。このように、地形、開発は城館の分布に影響を与えているといえる。

さらに、小山館や雨森館のように、城館が集落の中心施設となり、共同体の核となっていたと予想される例が見られた。〈地球の運動によってできた大地→それに人間が手を加えた開発(かたち)→それらに影響されてできる共同体〉という図式で考えるとき、城館は大地・かたちと共同体の関係性を明らかにするための重要な要素であるといえる。

今後卒業論文において、湖北地方の地形、立地のバリエーションが、城館にどのように影響を及ぼしたかより広域に調査する予定である。

参考文献

高月町『高月町史 景観・文化財編』2006

滋賀県教育委員会『滋賀県中世城郭分布調査7』1990

地図は国土地理院『数値地図 25000(土地条件)』、Google earth、ArcGIS を用いて作成した。

III-3__神社拝殿の建築について

修士2年 齋藤湧一郎

0_はじめに 集落の中の神社

本調査の対象地域の集落のほとんどは屋敷が稠密に集合し明瞭な集落構造をもった「集化村」であった。それら集落では、それぞれの集落に対しておおよそひとつの神社が対応して立地している傾向を見出すことができる。さらに神社が集落のなかの核となるような中心部に立地するものや、集落のなかの微高地に立地しているものがみられた。以上から神社は集落ごとの特徴を捉える上で重要な要素となると言えよう。

本報告は神社の拝殿の建築に着目するものである。本調査では、本殿から独立し柱間が開け放たれた正方形に近い平面をもつ拝殿と出会った。これら拝殿の建築的特徴がどのようなものか、またその空間がどのように使われているのかについて報告し、神社の空間が集落のなかでもつ意味について考察してみたい。

1_拝殿の建築形式

本調査の対象地域のなかで本調査時に実際に訪れた神社は以下の5社である。

- ・天川命神社（長浜市高月町雨森）
- ・日吉神社（長浜市高月町井口）
- ・八幡神社（長浜市南浜町）
- ・上八木神社（長浜市上八木町）
- ・稲荷神社（長浜市唐国町）

このうち天川命神社（長浜市高月町雨森）と日吉神社（長浜市高月町井口）の2社においては、それぞれ拝殿を持ち、拝殿は柱間を開放しているという特徴がみられた。

八幡神社（長浜市南浜町）（図1）は拝殿をもたず、本殿のみの神社である。上八木神社（長浜市上八木町）および稲荷神社（長浜市唐国町）（図2、3）は拝殿をもつが柱間には板戸がはめられていた。唐国の稲荷神社拝殿は四方に縁と思われる部分をもつが、縁は板によって斜めに覆われている。

本報告では柱間が開放されている特徴をもつ天川命神社（雨森）と日吉神社（井口）の二つの神社の拝殿について、建築形式について詳細に報告する。これら二つの神社はいずれも旧高月町域に所在するものである。



(図1)八幡神社本殿__側面



(図2)稲荷神社拝殿__正面



(図3)側面と縁を覆う板

1_1_天川命神社（長浜市高月町雨森）

天川命神社は雨森集落の中心部に立地する神社である。滋賀県指定自然記念物に指定される樹齢が推定300年以上とされる樹高32m、幹周5.7mのイチョウの木が境内にそびえたつ¹。境内は周囲から石段3段ほどの微高地となっている。南北に伸びる神社の参道は集落の主要な道となっている。



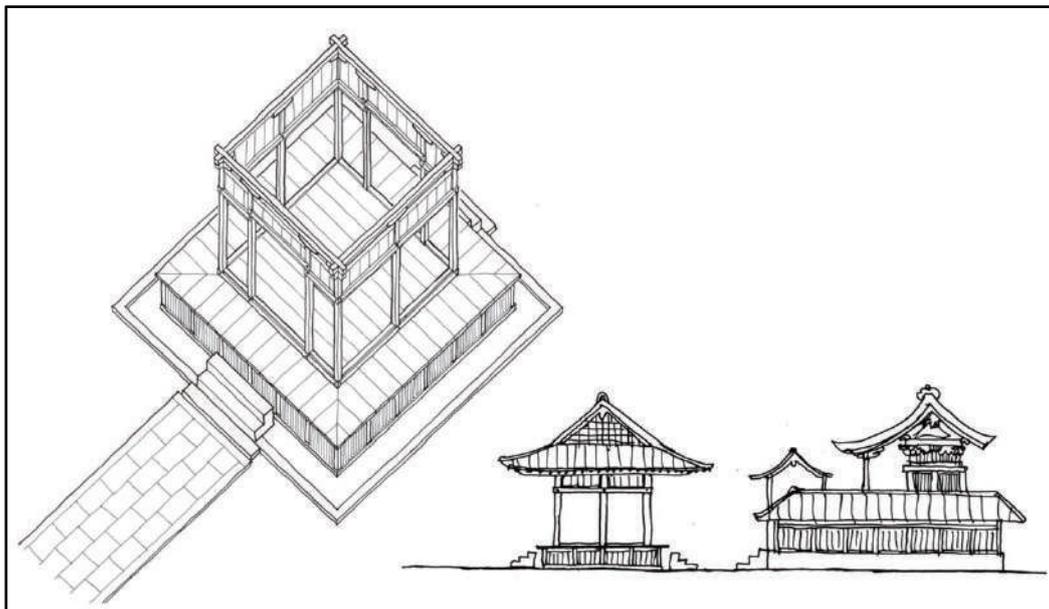
(図4) 雨森と天川命神社



(図5) 天川命神社拝殿

天川命神社の拝殿：

桁行三間・梁間二間。正面の中央一間が広く設けられ、長押も高い位置に打たれている。屋根は入母屋造、平入り、瓦葺。長押上の小壁は板壁である²。柱間は開放されているが、それぞれの柱間には溝のある敷居および鴨居が設けられている。また本殿と拝殿をわたす板が設けられており、簡易的な屋根も増築されている様子を確認することができる。



(図6) 天川命神社拝殿_アクソメスケッチ・東側立面スケッチ (no scale)

¹ 滋賀県による立て看板より

² 滋賀県神社庁ウェブサイトによると「間口二間、奥行二間」とある。滋賀県神社庁ウェブサイトに掲載される情報の出典元は滋賀県神社誌編纂委員会編纂『滋賀県神社誌』（滋賀県神社庁、1987）であることを滋賀県神社庁への電話取材によって明らかにできた。しかしこれら情報のうち特に建築規模については、その調査方法や年代などについて『滋賀県神社誌』にあたることができいないために現状は不明であり、その精度などについて検討する必要がある。また滋賀県神社庁伊香支部が発行する『伊香郡神社史』（昭和56年）を参照することができたが、建築規模に関する記述はなかった。ウェブサイトに記載のある寸法は、現在見られる拝殿のものとは必ずしも一致しないようである。

1_2_日吉神社（長浜市高月町井口）

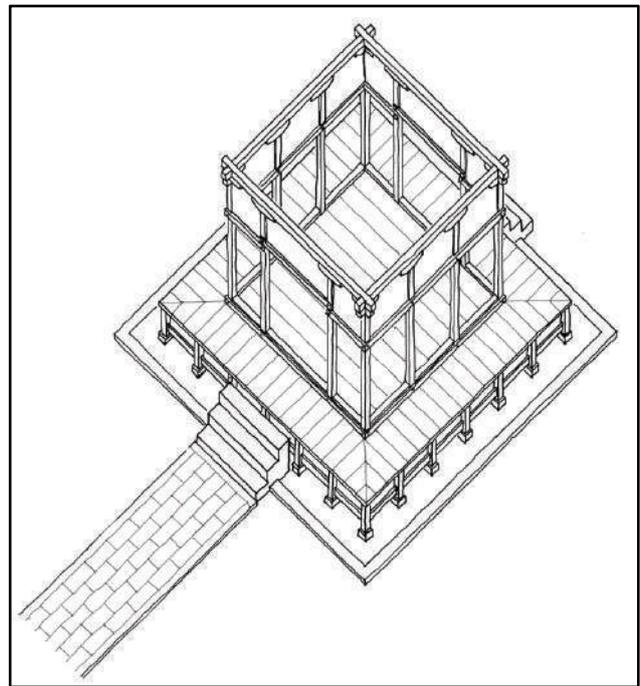
日吉神社は井口集落の東北端に立地している。本殿は桁行三間、梁間三間、入母屋造、向拝一間。向拝まで葺きおろす葺葺きの大きな屋根が特徴的である。現在の本殿は元文三年（1738年）に再建されたものである。平成3年に県指定有形文化財に登録されている。³



(図7) 井口と日吉神社



(図8) 日吉神社拝殿（左）



(図9) 日吉神社拝殿__アクソメスケッチ (non scale) (右)

日吉神社の拝殿：

柱割りについて桁行三間・梁間三間である。奥行き方向が三間あるのは天命川神社とは異なり、正方形に近い平面形をもつ。また天命川神社と同様に正面の中央一間が広く設けられ、長押も高い位置に打たれているため、正方形平面において正面性が強調されている。柱間が開放されており、それぞれの柱間において鴨居および敷居には建具を嵌めるための溝は設けられていない。屋根は入母屋造、平入り、瓦葺である。長押上の小壁は漆喰で仕上げられている⁴。本殿と拝殿は完全に独立している。

³ 平成4年3月設置の滋賀県教育委員会による看板による

⁴ 滋賀県神社庁HPによると間口二間五尺、奥行二間二尺

1_3_日吉大社の拝殿

本調査地域からは外れるが、これまでに述べた拝殿の特徴である「本殿から独立し、四方が開放放たれる」という特徴をもつものに日吉大社の拝殿がある。比叡山のふもとに鎮座する日吉大社は西本宮、東本宮をはじめとする複数の社があるが、そのうちに、本殿から独立し柱間が開け放たれた拝殿が多く見受けられる。

図10はそのうちのひとつ、日吉大社摂社白山姫神社拝殿である。1598年に本殿とともに建てられた。1964年には重要文化財に指定されている⁵。桁行三間、梁間三間であり柱割においても規模においても「九間」である。規模に加えて、平入りの本殿に対し拝殿は妻入りとなること、回り縁に高欄が付く点が先ほどの二つの神社の拝殿とは異なる点である。



(図10) 日吉大社摂社白山姫神社拝殿

1-4_滋賀県および湖北地方の拝殿の建築的特徴について

これまで本調査で訪れた神社はいずれも「本殿から独立」（ただし増築によって結合されている場合もある）しているものであった。そのなかでも「柱間が開放されている」という特徴をもつものについて詳細に報告した。これらの特徴をもつ拝殿が歴史的に、または地理的にどのような特異性をもつのかを完全に明らかにすることはここではできないが、それを明らかにするための一助として、滋賀県教育会が1983年からおよそ3年にわたって実施した近世社寺建築に関する現地調査について、ここでは紹介する。調査報告書（滋賀県教育委員会文化財保護課「滋賀県の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書」昭和61年）では滋賀県内の近世社寺建築のうち構造形式、細部様式などに時代の特徴がみとめられる410棟について現地調査の報告がなされている。このうち神社拝殿は8棟報告されている。

この報告書の概観部分で、神社拝殿について以下のように述べられている。

「県下の神社にはほとんどの場合拝殿をもっているとみてよい。しかも、三間四方の規模をもち四周開放形で、屋根は入母屋造妻入りとするのが一般的である。ただ、本殿にくらべ拝殿は建て替えられる機会が多く実年代が古いのはあまり見当たらない。」

また、

「18世紀以降のものはほとんど調査を割愛せざるを得なかったが、本殿ほどでないにしても単純から複雑への過程をみることができ、また一方使用方法の変化から開放形から閉鎖形への移行が認められる。」

と述べられている。

以上から本調査で報告した湖北地域の2つの拝殿の特徴を考えると以下のように述べることができるであろう。

正方形に近い平面形をもち本殿から独立するという特徴は滋賀県に一般的であるようだ。また滋賀県には妻入りものが滋賀県には一般的としていることから、平入のものは湖北地方に特有なものであるかもしれない。また本調査でも開放形と閉鎖形のものが見られたが、開放形のほうがより古い形式であることが考えられる。

⁵ 1992年3月設置の天津市教育委員会による看板による。

2 考察

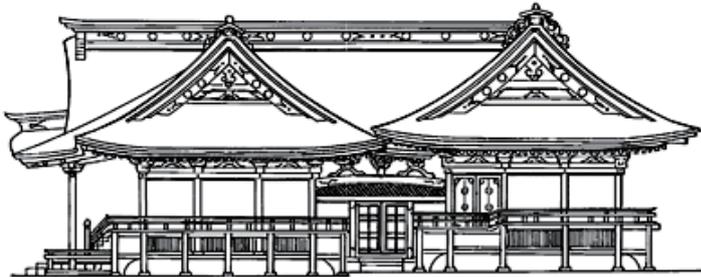
ここで以上の報告内容からそれらの空間がもつ歴史的な意義や地域の共同体における重要性について考察していく。

2_1_ 拝殿の成立過程について

建築史家の井上充夫は神社の拝殿空間について、神の住居である本殿に対して拝殿は「人の場所」として設けられることを強調し、神社拝殿の成立過程について述べている。本殿は神の住まいであり、その空間に礼拝者などの人間が立ち入ることは普通はない。やがて神社に礼拝のための空間が要求され始めた。そうしてつくられ始めたのが拝殿の空間である。同様の現象が寺院空間でも指摘されている。寺院の場合はそれまでの仏殿の建築を増築する形で人間のための空間である礼堂がつくられたが、神社は別棟として拝殿が建てられるのが普通だった。

井上は拝殿の成立過程について3つの起源を挙げている。そのうちのひとつが舞殿に由来するもので、舞拝殿と呼ばれるものである。舞殿は神社に舞楽を奉納する際の建物である。神社の礼拝は地上で行うのが原則であったが、屋根と床のある耐久的な建物の要求が生まれ舞殿ができた。舞殿はやがて礼拝の場所として利用されるようになり、中世以降に拝殿として広く普及されたという。本報告で報告した拝殿はいずれも井上の言う舞拝殿の系統に相当するものであると考えられる。

ちなみに、近世以降は本殿と拝殿を結合した権現造り（図11）と呼ばれる形式が流行した。それまでは本殿と拝殿は別々に建つものがほとんどであったが、例は礼拝儀式の利便のために本殿と拝殿を連絡したものと考えられる。神のための空間であった本殿に対し人間のためのない分空間が拡張し結果である。このことを換言すれば、「独立した拝殿」は神社の神聖さを強調しているものであり、また神の住まいに対して人間のための空間として設定された拝殿の初源的な形態を残すものであると言うことができよう。



(図11) 権現造り立面図

2_2_ 「おこない」と拝殿

実際に神社の拝殿がどのように使われているのか、湖北地方で行われている「おこない」の様子を確認する。

「おこない」とは2月ごろに村ごとに行われる神事のことである。おこないは頭家^{とうが}と呼ばれる世話役が任期一年間を精進潔斎してその日に備え、当日は頭家を中心に村の成年男子によって鏡餅やまゆ玉がつくられ、村の神社や観音堂に奉納され、その間、酒食の接待や太鼓踊りなどの芸能が行われる。「おこない」は古来より春迎いの農耕儀礼に仏教的な色彩の加わったものと考えられており、中世以降自立性を強めた村落共同体の伝統を垣間見ることができる。⁶

「おこない」の内容はそれぞれの村ごとに異なる。高月町史編纂委員会がまとめた報告は村ごとの「おこない」の様子が記述されている。そのなかで神社の拝殿で祭礼を行う様子が確認できた。図12の写真は日吉神社（落川区）でのおこないの様子の一場面を紹介したものである。拝殿を使う場面として、神社に鏡餅が奉納される場面や、次期トウ主への受け渡しの場面が記録されている。また図13は馬上区の大祭（二月六日）の拝殿式典において着座者を示したものである。この式典とは鏡餅を奉納する場面である。

⁶ 高月観音の里歴史民俗資料館による解説文を参考

以上のように、おこないという祭礼行事において拝殿の床に上がり祭典を行っている様子を確認することができた。拝殿の大きさは式典を行う人数（馬上区の場合では6名）が入るのにちょうどいい大きさであるように見える。



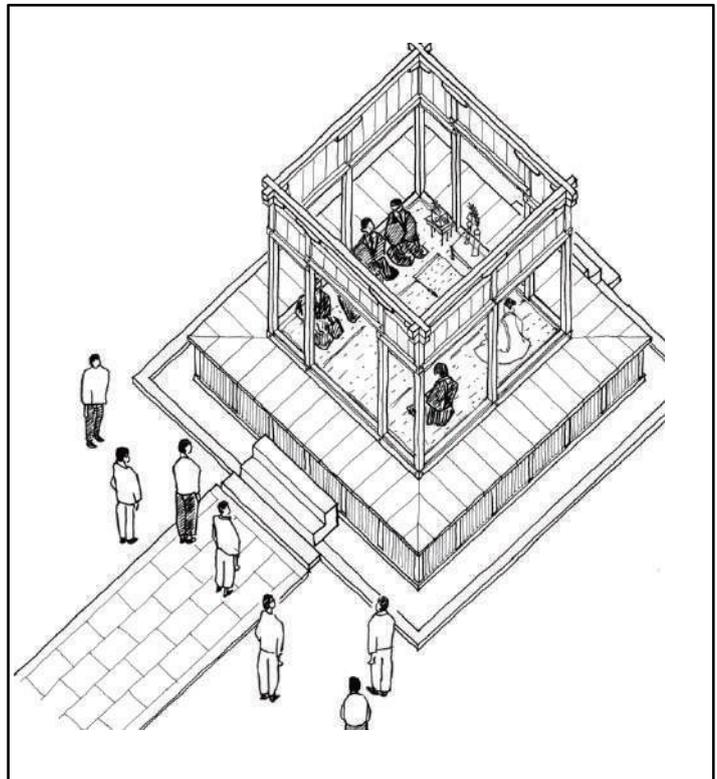
(図13) 馬上区の大祭（二月六日）の拝殿式典（右）

3_結論

本殿から独立した拝殿を持つ形式は「人間のための礼拝空間」という拝殿の成立期の原初的なかたちを残していると言える。

四方の柱間が開け放たれている拝殿の建築は、雨や風などに対し不利であるはずだが、壁や建具が設けられずきれいに維持されていることから、地域における神社の重要性を伺うことができる。

これらの拝殿空間では湖北地方の祭礼である「おこない」が行われている様子などが確認できる。集落ごとに立地する神社拝殿はそれぞれの集落にとって象徴的空間であり、集落共同体のなかで中核的な役割を担うものである。



(図14) オコナイにおける神社拝殿の使い方イメージ

・研究の今後の展開

今回の調査を踏まえて筆者によって神社拝殿建築についての研究を進めている。旧高月町域すべての大字のうちで拝殿をもつ全ての神社を対象に、拝殿の建築形式（平面形式や屋根形態、柱間の状態など）や状況（祭礼時の使われ方）などを現地調査による採集を実施し、拝殿建築の類型化、他地域との比較などの方法によって分析を進めていく予定である。

4 __図版出典

- (図1) 筆者撮影
- (図2) 筆者撮影
- (図3) 筆者撮影
- (図4) googlemapより。筆者加筆。
- (図5) 筆者撮影
- (図6) 筆者作図。
- (図7) googlemapより。一部筆者加筆。
- (図8) 筆者撮影。
- (図9) 筆者作図。
- (図10) 筆者撮影。
- (図11) 広辞苑「権現造り」の項目より。
- (図12) 高月町史編纂委員会『高月町内『おこない』写真集』（平成12年11月発行）より
- (図13) 高月町史編纂委員会『高月町 町内の「おこない」（平成12年10月発行）より
- (図14) 筆者作成

5 __参考文献

- 井上充夫『日本建築の空間』（鹿島出版会、1969年）
- 黒田 龍二「滋賀県湖北地方のオコナイとその建築：祭礼建築論の試み」（国立歴史民俗博物館研究報告98巻、2003-03-31）
- 滋賀県神社庁HP（<http://www.shiga-jinjacho.jp/index.html>）2020/9/1閲覧
- 高月町史編纂委員会『高月町内『おこない』写真集』（平成12年11月発行）
- 高月町史編纂委員会『高月町 町内の「おこない」（平成12年10月発行）
- 滋賀県神社庁伊香支部『伊香郡神社史』（昭和56年）
- 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課「滋賀県の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書」（昭和61年）

中谷礼仁建築史研究室千年村ゼミ
近江湖北調査荘園調査報告書

(付録) 2020年度千年村研究ゼミ 近江湖北地域荘園調査 調査対象大字 一覧表

郡	荘園基本情報				史料				遺跡など				調査する大字 候補	地形分類	理由	その他候補		
	荘園	比定大字領域	初出年代	中世絵図	近江国各郡 街絵図(注1)	近江国浅井郡 八ヶヶ村地絵図(注1)	その他	古道	城館(遺構あり)注2	城館(遺構なし)注2	千年村候補地(注3)	奈良遺構(注4)					番号	
浅井郡(西)	2110008 近江国浅井郡塩津庄	塩津・中村・浜	1302	x	x	x		塩津街道	塩津中(応正寺城)		x	x	2 0	塩津浜	三角州・自然堤防・干拓地	街道が集落内に存在する、湖畔の集落。農業以外(交易)の生産で生活する集落の形が見られる。港遺跡が見られる。かつて内湖が存在したことで琵琶湖の変動との関係。		
	2110009 近江国浅井郡大浦庄	大浦・黒山・小山・山田・八田部・庄・中山・山門	879	x	x	x		x			x		2 1	八田部	三角州・後背低地・谷底平野	千年村比定地でもある。	小山・山田	
	2110023 近江国浅井郡長原下庄	大浦船崎・黒山・庄・殿・中山門・東八田部・西八田部・山田・小山	?	x	x	x						x		庄	三角州・急傾斜平野・谷底平野	街道(塩津街道?)が通る		
浅井郡(東)	2110001 近江国浅井郡田根庄	池良・瓜生・高畑・野田・木尾・大依・八島・上野・力丸・黒部・小室・竜岸寺・竜安寺・北野・谷口	1190						野田、木尾、黒部、	瓜生、(小室)			1	野田	扇状地	溜め池近接	木尾	
	2110002 近江国浅井郡湯次庄	湯次・西主計・三田・大路・内保・野・宮部村・大井・三河	1200		大路、内保	大路、内保		大路		大井郷が範囲内			2	大路	扇状地	絵図、城館遺構有	内保	
	2110004 近江国浅井郡速水庄	速水・南速水・高田・小倉・馬渡・賀・大安寺	1159					北国街道	南速水	速水、高田、小倉	速水郷が範囲内			3	速水	氾濫平野、自然堤防	街道が集落内を通る。千年村比定地	南速水
	2110005 近江国浅井郡津井庄	延勝寺・今西・尾上・津里・石川・東尾上・田中・種路・河原・市場・五坪	1094		河原、田中、五坪		河原、田中、五坪の相論絵図		今西	田中、延勝寺				4	田中	氾濫平野、自然堤防	河原、田中、五坪の3村の相論絵図が残る。周辺は排水不良地。田中は最下流の村。	河原、五坪
	2110011 近江国浅井郡今西庄	今西・延勝寺	1164				浅井郡延勝寺・菅浦、伊香郡片山村山論裁許絵図等/[中世の惣村菅浦]		今西	延勝寺				5	延勝寺	氾濫平野、自然堤防	菅浦との相論絵図有	今西
	2110013 近江国浅井郡草野庄	寺師・高山・中・野瀬・細野・鍛冶屋・岡谷・徳山・殿崎・飯山・当目・大門・兼倉・南郷・北郷・小野寺・東野・保楽寺・北池・南池・東主計・佐野・今庄・下坂並・上坂並・吉槻・甲賀・曲谷・甲津原	1340		東主計、飯山、当目、兼倉、鍛冶屋、北池、	東野、東主計、北池		当目		東主計、北池				6	東主計	扇状地	絵図あり、奈良地割がよく残っている	
	2110014 近江国浅井郡草野南庄	-	1340															
	2110015 近江国浅井郡草野北庄	-	1340															
	2110017 近江国浅井郡田川庄	小今・中野・河毛・山脇・別所・留目・伊部・田川・草勝寺・山前・須賀谷・郡上・丁野・二俣・下山田・上山田	1355		河毛、下山田、中野	上山田				河毛、(下山田)、中野				7	上山田	山麓堆積地形、谷底平野	谷間にある集落。上山田と下山田は隣接している、ともに絵図が残っているのでもう一方見たい。	下山田
	2110020 近江国浅井郡南福庄	南浜・中浜・大浜								南浜				8	南浜	氾濫平野、自然堤防、鵜水塚、浜	姉川河口の集落。八木浜と生業を比較したら面白いかも	
	2110021 近江国浅井郡増田庄	益田・海老江・安養寺								益田、安養寺				9	安養寺	埋立地、氾濫平野、自然堤防	この周辺は水路が複雑。安養寺は集落に引き込んだ水路が大きくクランクしている	益田
	2110022 近江国浅井郡青名庄	青名・八日市場・猫口・沢・今・年久						北国街道		今				1 0	八日市	氾濫平野、自然堤防、鵜水塚、浜	街道と川に挟まれた集落。都市的な場所か?	青名
	2110024 近江国浅井郡浅井保	錦織・難波・五・前・田・大寺・月ヶ瀬・唐国	1455						大寺	錦織、難波、田、月ヶ瀬、唐国	錦部郷が範囲内		1 1 1 2	唐国月ヶ瀬	氾濫平野、自然堤防	千年村比定地	唐国、田、月ヶ瀬	
	2110030 近江国浅井郡矢備庄	八木浜・下八木	1060						八木浜、下八木					1 3	下八木	氾濫平野、自然堤防	湖畔の集落	
	2110032 近江国浅井郡河津庄	川津・南浜・大浜	1231							南浜、河津				-	-		基本的に南福庄と重複	
	2110033 近江国浅井郡富田庄	富田・北富田	980							富田							氾濫平野、自然堤防	
	千年村: 近江国浅井郡朝日郷	山本・五坪・大光寺・田中・今西・延勝寺・津里・石川・東尾上・尾上												1 4	山本		比較対象として荘園領域に比定されず千年村候補地に比定される大字・山本を調査する。	
伊香郡	2111001 近江国伊香郡余呉庄	中河内・梅坂・大谷・今市・東野・国安・池原・文室・八戸・川並・飯浦・山梨子・中郷・下余呉・坂口・上丹生・下丹生・菅並・田戸・小原・鷺見・針川・甲並・尾羽裂	1352	x		下余呉・中之郷		北国街道				x	1 5	余呉町下余呉	氾濫平野、山地	北国街道に沿った集落。明治期の絵図から土地利用の様子が分かりやすい。	中之郷	
	2111002 近江国伊香郡伊香庄	杉野・杉本・大見・川合・古橋・千田・黒田・大音・西山	1070	x		木之本村(明治期)西山村		北国街道	杉野城跡、南掛寺遺跡、横山岳遺跡(杉野)				1 6	木之本町杉野	(土地条件因なし)山地・谷底平野	杉野川に沿った谷沿いの山間集落。明治期の絵図の谷全体の絵図が2枚残存。		
	2111003 近江国伊香郡中庄	西山・大音・黒田・千田・木本・河合・大箕・古橋・杉野	1290	x		木之本村(明治期)西山村		北国街道					1 7	木之本町大音	氾濫平野・山地	山沿いの微高地に位置する集落だが、明治期の絵図を見ると住居が山間に沿わずにやや散居的な配置になっており、住居の間が畑として使われていて特徴的な構造のため実見したい。		
	2111004 近江国伊香郡富永庄	東宇根・西宇根・東阿閉・高月・森本・落川・馬上・渡岸寺・柏原・雨森・保延寺・持寺・井口・尾山・洞戸・石道・小山田部・高野・東物部・西物部・横山・唐川・熊野・西野・松尾・片山	1231			高月、森本、落川、石道、東物部、横山、唐川、熊野、西野、松尾、片山							1 8 1 9	高月町唐川、高月町雨森	後背窪地、山地、氾濫平野、自然堤防/扇状地	唐川は明治期の絵図あり。平野に独立してそびえる小さな山の麓にある集落で山がどのように使われているかを見たい。雨森周辺は一つの自然堤防上に複数集落が密集する特徴的な集落形態をもつため実見したい。		
	2111005 近江国伊香郡都庄	西柳野・柳野・東柳野・西阿閉・磯野・高田・布施・赤尾・重則	1070			高田(明治期、明治初期)・布施(明治初期)											明治期の資料があるのは高田、布施の2つだが、現在は神社がなくなっている。集落が小規模である。大正期土地利用から判断できるのは西阿閉(南部に湧水域をもつため)。	

中谷礼仁建築史研究室千年村ゼミ
近江湖北調査荘園調査報告書

2111006	近江国伊香郡余湖庄	中河内・榑坂・小谷（＝3カ村）・今市・東野・国安・池原・文室・八戸・川並・飯浦・山梨子・中之郷・下余呉・坂口（＝片岡郷12カ村）・上丹生・下丹生・菅並・田戸・小原・鷺見・針川・甲並・尾羽梨（＝丹生郷9カ村）				中之郷・下余呉(×2)・今市	北国街道	中谷山岩遺跡	x							
2111010	近江国伊香郡伊香古庄	-	1250	x			北国街道			平野部○						
2111011	近江国伊香郡菅浦庄	菅浦	1183	○		複数ある					2 2	西浅井町菅浦	汎濫平野、扇状地、山麓堆積地形	琵琶湖に面した漁村。中世絵図、明治期地図が残存。既往研究が豊富。		
2111012	近江国伊香郡伊香新庄	杉野・杉本・大見・川合・古橋・千田・黒田・大音・西山	1475	x			北国街道			平野部○						
2111013	近江国伊香郡伊香勸置	杉野・杉本・大見・川合・古橋・千田・黒田・大音・西山	1238	x			北国街道			平野部○						

参考
 註1 滋賀国立図書館, “滋賀国立図書館 近江デジタル歴史街道”, <https://www.shiga-pref-library.jp/wo/da/search/> (参照20200731)
 註2 滋賀県教育委員会 『滋賀県中世城郭分布調査7』 1990
 註3 千年村プロジェクト, “千年村プロジェクト 地図から見つける”, <http://mille-vill.org/%E5%9C%B0%E5%9B%B3%E3%81%8B%E3%82%89%E3%81%BF%E3%81%A4%E3%81%91%E3%82%8B> (参照20200731)
 註4 高橋美久二最終講義 “近江の条里と古道—生い立ちから考古学・歴史地理学への道をかたる—” <http://www.shc.usp.ac.jp/takahashi/saisyuukougirejume.pdf>

第2回調査

第2回調査参加者：齋藤湧一郎 細井菜々子 伊東華奈子 荻野智樹 東野友紀 謝筠鈺

I. 調査目的

修士 2 年 伊東華奈子

I-1. 調査にいたるまでの経緯

早稲田大学中谷研究室千年村研究ゼミでは、2018 年度以降、古代から中世にかけて土地の開発史の展開や集落立地の変遷から集落の持続性について考察をする研究を続けている。2020 年度は荘園史・歴史地理学・都市史など中世に関する文献の勉強会や、ゼミで取り組んだ中世荘園比定地のプロットの過程で近江湖北地方の中世荘園比定地に関心をもち、8 月に旧伊香郡域の荘園比定地の 22 大字を対象とする悉皆調査を計画した。¹

調査は折からの新型コロナウイルス感染症拡大の状況下のため、本来予定していた行程・人数から大幅に縮小し、基本的に車内から行うこととなった。その一方で、高月観音の里歴史民族資料館でのヒアリングに加えて対象地である高月町に関する貴重な文献を入手する機会に恵まれたこと、自転車や徒歩で移動可能なより狭い範囲・少人数での調査であれば感染予防・拡大防止対策に配慮できるとゼミ内で判断したこと、日を改めて再調査を計画する運びとなった。

I-2. 高月町の選定理由

前述の近江湖北地方集落調査で、伊香郡富永庄が比定される大字群の代表点として滋賀県長浜市高月町雨森を訪問した。この伊香郡富永庄というのは鎌倉時代以降延暦寺領として存在した荘園で、荘域は高月町とその北部の木之本町が想定されている。²しかし荘園比定地であることに加え、高月町は他の調査地と比べ

- ①近世以降の集落の景観や土地利用に関する史料・文献が豊富で、先行研究も多いこと
- ②井郷とよばれる用水を共有する集落同士の集団が中世後期～近世に扇状地上に形作られていて³、それが現在まで明確な単位をもって残る全国的にも貴重なフィールドであること⁴

という 2 点の大きな特徴が見受けられた。また規模を縮小しながらも調査を実施可能な範囲であったことから、湖北平野の集落の特徴を掴む上で適した地域であると判断し、今回の調査対象とした。

¹ 詳細は中谷研究室千年村研究ゼミ「近江湖北地方集落調査報告書」(2020 年)に記載

² 『荘園志料』、『滋賀県史』、『近江伊香郡志』等でこの富永庄を伊香郡のものとしている。

³ 野間晴雄、「近江盆地における伝統的農業水利体系と村落結合—『農業ノ水利及土地調査書』の分析(2)—」、歴史地理学紀要(31)、歴史地理学会、1989 年、pp.83-130

⁴ 正確には近世において井郷は高月町以外も含めて湖北平野内に 19 存在していた。同註 3 参照。

I-3. 調査目的

以上の経緯を踏まえて、本調査の目的を2つ設定した。

第一に、集落景観の形態的分析を試みること、そのために大字・居住域レベルでの土地利用の状況・用水の流路や利用実態を調査すること。第二に、各集落の景観や構造と、集落の立地条件との関連を明らかにすることとした。

I-4. 調査対象大字の選定

高月町周辺には5つの井郷があるが、今回はその中から主要な3つをピックアップし、具体的に以下の13大字を調査対象とした。今回実際に訪問できたのは横山・磯野を除く11大字。

井組（水利集団）	大字
大井組村落（上六組）	井口
	持寺
	保延寺
	雨森
	柏原
	渡岸寺
大井組村落（下六組）	唐川
	横山
	東物部
	西物部
	磯野
上水井組村落	洞戸
	尾山

II. 調査スケジュール

修士2年 伊東華奈子

II-1. 調査実施の流れ

今年度の調査は新型コロナウイルス感染の拡大およびそれに関連した社会情勢を踏まえ、平時より規模を縮小し感染予防・拡大防止対策を徹底・最大限配慮した上で調査を行った。具体的な留意事項は以下の通りである。

- ・参加の可否については個人の判断を尊重する。
- ・ゼミとしての調査期間は短縮し、個人の判断に応じ前後の日程に調査を設けることで調整する。
- ・調査中は毎日検温を行い、マスクを着用する。
- ・調査は基本的に3人以下のグループに分かれて行い、集落内を歩く際は3密を避け、住民へのヒアリングも無理に行わない。

II-2. 調査参加者

学生：(修士2年)伊東、荻野、齋藤、細井、(修士1年)東野、謝

II-3. 調査日程

2020年11月1日(日)～2020年11月2日(月)(※伊東・謝は～3日(火)まで)

11月1日(日)

10:30 高月駅からレンタルサイクルで調査出発。

保延寺 白山神社まで移動した後、集落全体を徒歩で見学した。畑地からドローンで集落を空撮した。



図1 高月町保延寺の大字領域



図2 保延寺の空撮写真(荻野撮影)

13:00 昼食

午後は二手に分かれて調査を再開した。

唐川 県道261号から北上し赤後寺・日吉神社を訪問。集落全体を徒歩で見学。



図3 高月町唐川の大字領域



図4 日吉神社から集落を望む(伊東撮影)

東物部・西物部 乃伎多神社まで移動し、徒歩で集落を見学。



図5 東物部・西物部の大字領域



図6 東物部での調査の様子(齋藤撮影)

16:30 初日調査終了。住吉屋旅館にてミーティングを行った。

11月2日(月)

9:00 雨天のため徒歩にて調査再開。

柏原 佐味神社まで移動し、二手に分かれて集落内を調査。

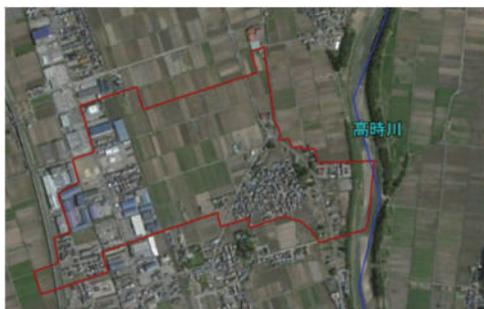


図7 高月町柏原の大字領域



図8 柏原での調査の様子(細井撮影)